

ミカントゲコナジラミ（チャ系統）の発生状況について

ミカントゲコナジラミ（チャ系統）は大分県において平成21年12月6日に初確認し、平成22年3月18日付けで平成21年度病虫害発生予察特殊報第4号を発表しました。平成16年に京都府で初めて確認された後、平成18年に滋賀県、奈良県、三重県、平成21年に島根県、福岡県、埼玉県、岐阜県、平成22年に岡山県、兵庫県、愛知県、静岡県と全国的に発生が拡大しています。

本虫は、極めて短期間で生息密度が高まるため、発生地域では防除対策を徹底することが必要です。未発生地域では、発生地域から苗木等を介して侵入しないよう注意しましょう。

1. 発生の状況

平成22年2月の調査では発生源と推定される杵築市大片平松村の茶園（平成19年に関西地域から苗木が導入された）から半径約4kmの4地区内のみで発生を確認したが、12月の調査では、発生範囲は半径約5kmまで拡大し、発生地区数は4カ所から10カ所に増加している（図1）。現在のところ発生が確認されているのは旧杵築市内だけである。

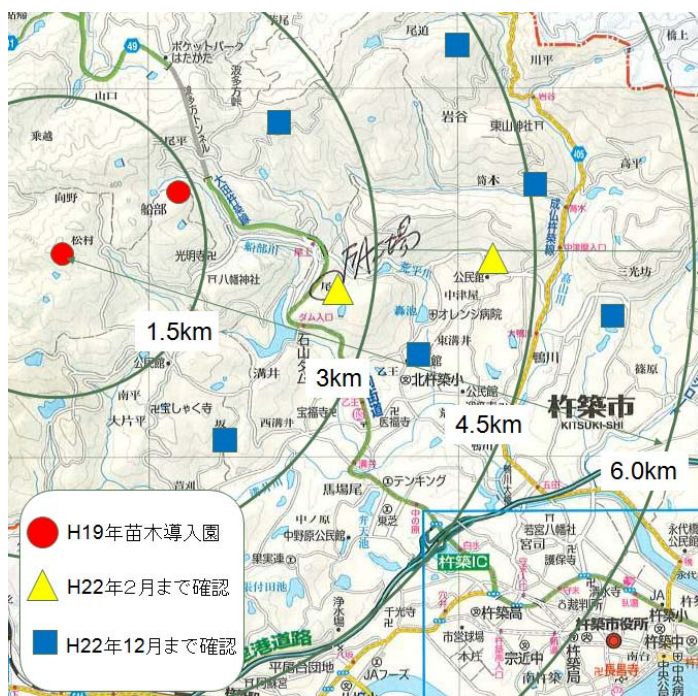


図1 杵築市内での発生拡大状況



写真1 葉裏に寄生する幼虫

2. 防除対策

- (1) 本虫は現在越冬期で幼虫が葉裏に寄生していることから、葉裏をよく観察し、早期発見に努める（写真1）。
- (2) 既発生茶園での冬期の防除は、1月から3月の萌芽前までにマシン油乳剤を1か月間隔で2回散布する。葉裏に薬剤が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 未発生地域では発生地域からの苗木の導入、機械の貸し借り等は避ける。

担当：大分県農林水産研究指導センター
農業研究部 茶業チーム
TEL : 0974(22)0671